

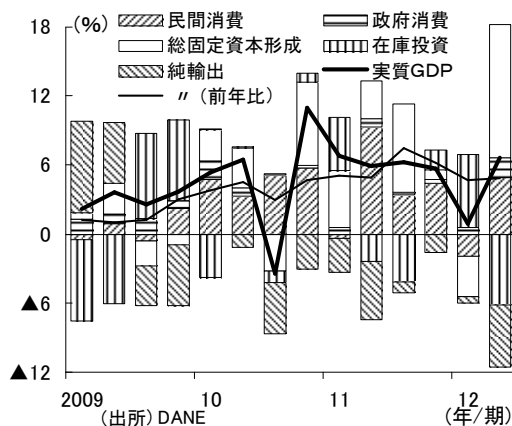


内需盛り上がるコロンビア

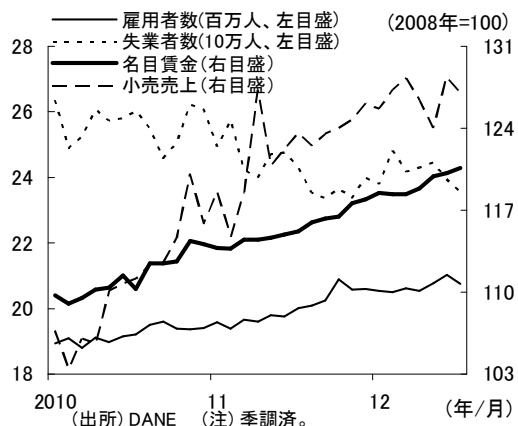
～ 消費と投資が成長牽引 ～

- (1) コロンビアが高成長復帰（図表1）。季調済前期比年率の実質経済成長率は前期1～3月期の0.9%から4～6月期6.7%。2011年1～3月期の6.8%以来のハイペース。牽引役は内需。寄与度をみると、外需は輸入増で▲5.4%。それに対して民間消費が+4.9%、さらに総固定資本形成は+11.6%と昨年7～9月期以来の高い伸び。
- (2) 消費は所得雇用環境の改善が原動力（図表2）。10年半ば以降、雇用者数が着実に増加するなか、11年初来、失業者数が趨勢的に減少。昨年末から今春まで景気好転を受けて労働市場への参入者が増加した結果、一時的に失業者数が若干増加したものの、6月から再び減勢へ。一方、名目賃金は11年前半は伸び悩んだものの、同年央以降着実な増勢へ復帰。消費者物価の騰勢も昨年末をピークにはば月を追って鈍化。直近の8月は前年比3.1%。良好な所得雇用環境を映じて小売売上は月毎の変動はあるものの、昨春来の底堅い増加傾向持続。
- (3) 一方、固定資本形成ではリード役が変化。まず建設工事は住宅から非住宅（図表3）。住宅は昨年央をピークに高水準横這いで成長寄与は限定的。一方、オフィスビルやショッピングモールなど、非住宅建設が期毎の変化は依然大きいものの、趨勢的増勢持続。次いで土木工事が昨年半ばまでの一進一退から再び盛り上がりへ。とりわけ道路や橋梁など交通インフラと送電網やパイプラインのエネルギーインフラ分野が活況。
- (4) インフラ整備は成長隘路の排除に向けた政府の取り組み。加えて、高成長に着目した外資参入が拡大（図表4）。主な業種別に対内直接投資を10年4月～11年3月と11年4月～12年3月で対比すると、鉱業が引き続き最大の投資セクターであるものの、鉱業以外の分野で急速な投資拡大。とりわけ、消費市場の成長に着目した商業や運輸、通信業が盛り上がり。公益分野も増大。内需の2本柱に牽引され、同国経済は引き続き高成長持続の公算大。

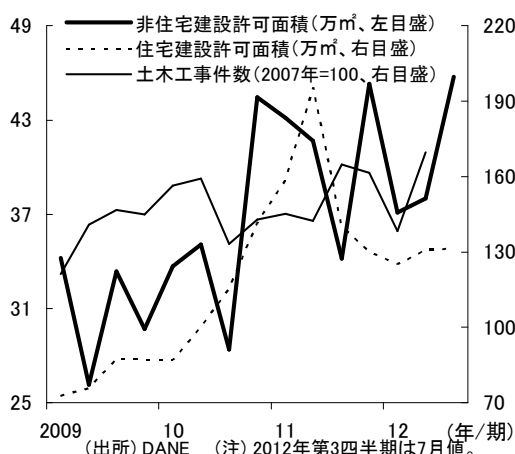
（図表1）コロンビアの成長率（季調済前期比年率）



（図表2）雇用者・失業者数と賃金、小売売上



（図表3）建設許可面積と土木工事件数（季調済）



（図表4）主要業種別対内直接投資

